

令和3年度 学校評価報告

草加市立新栄小学校

(令和4年2月1日作成)

1 学校教育目標 なかよく : 豊かな人間性とコミュニケーション かしこく : 学ぶ意欲と確かな学力 たくましく : 心身の健康と体力 【目指す学校像】 一人ひとりの子どもが輝く学校	
2 重点目標・努力目標 ・ 確かな学力を育む教育の推進 ・ 豊かな人間性とコミュニケーション力を育む教育の推進 ・ 体力向上・健康教育の継続 ・ 一人ひとりに応じた生徒指導・教育相談の推進 ・ 安全で潤いのある教育環境づくり ・ 絆を深め、地域とともに歩む開かれた学校づくりの推進 ・ 学校事故の防止と教職員事故の根絶	3 前年度の成果と課題 成果 ○保護者の学校評価アンケートで多くの項目で高評価を得た。(20項目中16項目) ○感染症対策において地域・PTA・教職員が一体となり、児童に安全・安心な学習環境を提供できた。 課題 ●基礎学力の定着や学力の向上、基本的な生活習慣の改善、あいさつ、学校応援団の人材確保

4 評価表 ※評価基準 [A : 十分達成している B : おおむね達成している C : やや不十分である D : 不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・ 学校経営目標、方針 ・ 校務分掌組織 ・ 適所への適材配置 ・ 職員会議等の運営 ・ 予算の執行・決算、監査等	A	○感染拡大を見越して準備を進めてのオンライン学習や活動再開・中止等、組織的に対応することができた。 ○重点目標を定期的に確認し、学校全体で目標達成に向けて取り組めた。
	②研究・研修	・ 研究組織、計画、実施 ・ 校内研修の推進 ・ 授業改善への取組 ・ 校外研修会への参加 ・ 人材育成	A	○全学年の研究授業を行い、研究テーマに迫る授業づくりを研究し、主体的な授業改善の風土が醸成された。 ●次年度の研究発表に向け、中学校区での連携をより密に行っていく。
	③保健管理・安全管理	・ 保健計画、安全計画 ・ 環境衛生の管理 ・ 健康観察、安全点検 ・ 緊急事態発生時の対応 ・ 危機管理マニュアルの作成・活用	A	○保健室のゾーニングや掲示物の再確認を行い、体調不良者が登校した際には、引き取りをお願いする等、感染症対策の徹底ができた。 ○登校時刻の見直しや通学路の総点検を行い、安全な登下校の環境を整備した。
	④情報管理・施設設備管理	・ 個人情報の管理、保護 ・ 施設設備の管理と有効利用	B	○個人情報持ち出し簿を活用し、個人情報の管理を日常的に行っている。 ○毎月、各担当で安全点検を行い、危険個所の確実な把握と速やかな補修に努め、場合によっては修繕依頼を行った。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・ 学校情報の発信 ・ 学校公開の実施 ・ 学校運営協議会の推進 ・ 地域、校種間連携 ・ PTA活動の活性化	B	○分散型の学校公開や学年ごとの運動会等、方法を工夫して児童の活動の公開を行うことができた。 ●コロナ禍におけるPTA活動の在り方や協力体制の維持等が難しく感じた。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・ 目指す子ども像の共有 ・ 15年間を通じたカリキュラムの編成 ・ 一貫教育推進のための組織づくり	B	○リモートによる部会や学校代表による協議により、目指す子ども像や研究テーマの共有ができ、調査分析方法の提案等、次年度の研究発表に向け本校が主体となって研究を推進することができた。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 1.5年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○緊急事態宣言による時数減が発生しても年間行事計画を見直し、時数配当を行うことにより当該学年での授業時数を確保した。 ○活動制限のある教科についても現況を把握し、部分的に活動を再開させた。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○研修を通してタブレット端末の活用方法の幅を広げ、意見の共有や視覚的補助の役割等で活用し、授業改善を行った。 ○中学校区共通の家庭学習チャレンジ週間の取組等、家庭学習の充実を図った。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修や授業研究会を通して授業展開や評価の仕方についての共通理解を図った。 ○学級における指導計画に沿って日々の道徳教育を行っている。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○指導内容を工夫しながら外国語の授業を進めることができ、9割の児童から英語に慣れ親しんだとの回答を得た。 ○限られた時間の中でALTとの打ち合わせを行うことができた。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○重点目標にも位置づけ、学級会を積極的に実施し、学級活動を活性化させた。 ○一年生を迎える会、クラブ・委員会活動の場所や内容を見直し、工夫して行った。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○地域人材・関係機関との連携を図り、可能な限り体験活動を行うことができた。 ○指導計画・指導内容の見直しを図り、学年に応じた指導をすることができた。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「報告・連絡・相談・見届け・アフターケア」を徹底し、組織的・機動的に問題行動等への早期対応ができた。 ○積極的な認知を行い、情報共有・経過観察し、長期化するいじめは0であった。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアパスポートの学校全体での取り組みが年間を通したものとなり、学級活動の単元で児童自身のキャリア発達の記録・蓄積を行うことができた。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学級との交流・共同学習の推進や、通常の学級における特別な支援を要する児童のケース会議や教育支援室との連携による対応を行うことができた。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通じて児童の読書への意欲を高める取組とともに学級単位での貸出時間の設定を行うことで、年間低学年50冊、高学年35冊を達成する見込みである。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットを用いた授業やプログラミング学習等、ICT使用が日常化した。 ●リモート学習やSNSにおけるモラル情報教育の徹底が必要である。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○研修を行い、教職員の人権感覚を高め、人権感覚育成プログラムを活用した授業を3学級で公開し、全学級へ広げた。 ●指導計画への新たな位置づけや見直し。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①食育	・多種多様な給食活動	B	○感染防止ボードを含む12の約束を守りながら安全な給食活動を行った。 ●誕生月の児童へケーキを出す等、交流給食に代わる特色ある給食様式を始めている。
	②安全安心・美のある学校	・安全で美しい環境整備	A	○新たにスクールガードに参加していただく等、保護者・地域等と協力して登下校の安全確保に努めることができた。 ○植栽ボランティアとの交流活動を年2回に増やすことができ、1年中、花の絶えない学校となるよう努めた。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- ・保護者の学校評価アンケートでは、「できている」「だいたいできている」の好評価(90%以上)を得た項目が20項目中16項目と昨年度同様であった。家庭学習チャレンジ習慣や生活リズムばっちりカード等、保護者への啓発、呼びかけを強化した効果が現れている。調査項目を見直し、自身の子どもの様子から回答する項目では微減する項目が多くなった。90%に満足せず、保護者が児童の伸びを実感できるよう取り組みを強化していく。
- ・オンライン学習に向けた計画的な準備や7回の研究授業、工夫した分散型研究協議等により、ICTの活用とともに授業改善・学びの保障ができた。また、感染状況をみて臨機応変に組織を生かして予定の変更にも対応し、校外学習や行事を安全に実施することができた。
- ・保護者や地域の方が見守る安全・安心の中で大きな事故もなく、児童は安全な登下校ができています。「安全で安心な学習環境」の項目でも97%の高い評価得ることができた。

6 次年度の改善策

- ①県学力学習状況調査の結果から、国語の伸びは県を下回り。算数では学力を伸ばした児童の割合が県を下回る状況にある。今年度全学年で研究授業を行い、授業改善を図った成果を生かし、研究テーマである「主体的に学びに向かうための授業改善」の具現化を目指し、「自己肯定感・自己有用感」を高めることにつなげ、基礎学力の定着や向上に学校全体で取り組んでいく。
- ②近年の課題である基本的な生活習慣「6時30分起床」「整理整頓」では、できていない割合が約30%と高い状況が続いている。学校と家庭がともに同じ目標に向けて協力し合うことを年度初めから保護者会等で共通理解を図り、家庭への啓発を行っていく。
- ③児童会によるあいさつ運動が再開されたが、児童からあいさつする意識が依然として低い。道徳・特別活動、通学班長会議等、あらゆる教育活動で学校全体として取り組んでいく。